

心理科学基礎

副題：メディアの読み方、使い方

[講義] 第2学年 前期 選択 1単位

《担当者名》加藤正巳 (非常勤講師 kato-shinri@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

新聞や雑誌の主に社会問題に関する文章を論理的に読解（インプット）し、自分の考えを表現（アウトプット）の訓練を討議や論述を通じて行う。特にグループ討議の時間は十分に確保する。論述試験を含む公務員試験や大学院受験を目指す学生にも役立つ内容になるだろう。

【学修目標】

例えば「公認心理士」の資格を取得し社会に出たとしても、その専門知識だけをもって仕事をするのは極めて難しい。「クライアントがどんな教育を受け、どのように仕事をして暮らしているのか」、「そこに法や経済がどのように関与しているのか」といった社会問題や社会の仕組みへの理解が必要不可欠であり、クライアントに横たわる社会的背景への理解度とそれについての表現力によって仕事の質は変わってくるに違いない。これは、公認心理士に限らずあらゆる社会人に共通することである。学習目標をして以下の3点をあげておく。

メディアを通じて日頃から社会・時事問題に関心を寄せる生活習慣を確立する。

新聞などのメディア情報の読み方、討議や論述によるアウトプットの仕方を身につける。

論説文を題材にして読解力、要約力、自分の考えを表現する力を高める。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	メディアとは何か、情報とは何か	情報の本質、インプット、アウトプットすることの意義 交通事故死した障害児の損害賠償減額判決	加藤 正巳
2	新聞の読み方	新聞記事の構成や見出しの使い方を理解する。各自新聞を購入、持参する。 ヤングケアラ	加藤 正巳
3	レポートの書き方	社会問題に関する小論文の書き方を学ぶ メタバース、フードバンク危機	加藤 正巳
4	問いと仮説で考える	「問いと仮説」での思考方法を学ぶ 自転車ヘルメット着用率、脱プラスチック社会	加藤 正巳
5	メディアのスタンス（前半）	「メディアのスタンス」とは何か。スタンスの違いは新聞紙面にどのように表れているのか 同性婚訴訟	加藤 正巳
6	メディアのスタンス（後半）	共同親権、選択的夫婦別姓	加藤 正巳
7	論説文の読み方・使い方（前半）	対立する意見を持つ両者の主張内容とその根拠を読み解き、自分の意見を持つ 香川ゲーム規制条例、キャッシュレス社会の未来	加藤 正巳
8	論説文の読み方・使い方（後半）	死刑制度の存廃	加藤 正巳

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート80%、授業への取り組み態度20%で評価する。レポートはコメントをつけて返却するので復習に活用すること。

【教科書】

使用しない。その都度プリントを用意する。

【参考書】

北海道新聞、読売新聞、朝日新聞、日本経済新聞その他

【備考】

= 2025年度の授業で扱ったテーマです。差し替えるものもあります。

【学修の準備】

授業期間中に1回、新聞を学生自身が購入し読むように指示される。
論述や討議についてのレポート課題は、8回の講義のうち4回程度の予定。
1回あたり復習時間：30分程度

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

D P 6：情報科学に関する知見を持ち、数理・データサイエンスの活用ができる。

D P 7：社会の変化を見通し、自己のキャリアを構築する力を修得している。

【実務経験】

新聞社、広告代理店、プロサッカーチームの運営会社、金融機関など

【実務経験を活かした教育内容】

新聞社及び金融機関などにおいて得た社会人経験を反映させた時事教育も行う。